

わたしを束ねないで：新川和江詩集

男と女が われ鍋にとじ蓋式に結ばれて

次の日から はや糠味噌（ぬかみそ）くさく になっていくのはいやなの  
です

あなたがしゅろうの鐘であるなら わたしはそのひびきでありたい

あなたがうたの一節（ひとふし）であるなら 私はその対句でありたい

あなたが一個のレモンであるなら わたしは鏡の中のレモン

そのようにあなたと静かに向かい合いたい

魂の世界では 私もあなたも永遠のわらべで

そうしたおままごともゆるされてあるでしょう

湿ったふとんのにおいのする

まぶたのように重たくひさしのたれさがる

一つ屋根の下にすめないからといって

何を悲しむ必要がありません

ごらんなさい 内裏雛（だいらびな）のように

私達だけがならんで座ったゴザの上

そこだけ明るく暮れなずんで

絶え間なくさくらの花びらがちりかかる

（わたしを束ねないで：新川和江詩集、童話屋、1997年）